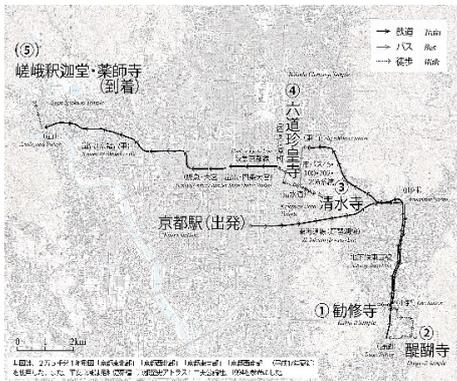
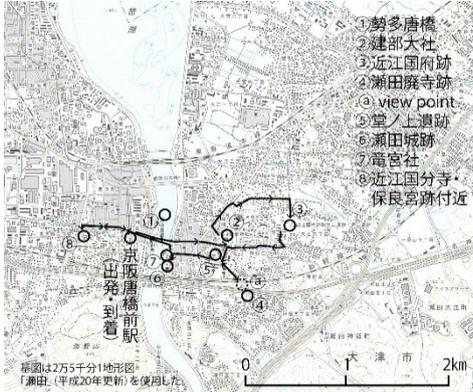


<p>歴史・地理</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>□ 地理学を活かした旅の創造</p> <p>□ 歴史的空間認識に関する研究（古典の物語の舞台など）</p>
<p>key word</p>	<p>課題解決に役立つシーズの説明</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ 地理学 ■ 旅の創造 ■ 京都 ■ 歴史的空間認識 ■ 歴史地理 ■ 地理教育 	<p>古典の物語の舞台に関する地理学的研究とともに、その成果などを活かして旅の創造を行う、という実践的な探究を行っている。創造した旅のプランは、観光の新たなコンテンツを生み出すことにつながり、地域の活性化につながる可能性がある。</p> <p>まず研究について、「物語の舞台」は、現在のところ古典の物語の中で取り上げられた場所を指す。具体的には、『今昔物語集』『宇治拾遺物語』といった説話の舞台の意味について考えてきた。京都（平安京）の人々が見聞いたことのある場所や各地の伝え聞いた場所についてどのように考えていたかを探るもので、舞台を地図化する作業を通じて分析している。結果、例えば貴族の崇敬を集める平安京外の寺社においては説話で語られる内容が登場人物にとって期待すべきものとなっていることが多いなど、地図化によって傾向も分析することができる。この研究の成果で、古典の描かれた時代の人々の場所に対する考え方の一端を理解することができ、歴史的な研究に寄与できる。</p>
	<p>上記の物語の舞台となった場所の訪問も含め、絵図や古地図等も用いつつ旅をすることで、これまでとは視点の異なる旅をしてもらいたい意図があるが、大きな特徴として、パッケージされたツアーではなく、自らテーマに応じて旅のプランを創造することで、旅をより有意義なものにしてもらい、何回でも訪れることができるように促すものである（左図は京都、右図は滋賀の旅のプランで、ともに授業で用いた）。これは社会的な貢献にも通じるため、研究を社会に還元する方法のひとつとして捉えられる。またこのことは地理学でさかんに行われているエクスカージョンと思想を共有するものであり、地理教育的な意義にも通じる。</p>
<p>安藤 哲郎 Tetsuro Ando</p>	
<p>教育学部 准教授</p>	
<p>【プロフィール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●略歴 ・2004年 早稲田大学第一文学部卒業 ・2011年 京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程修了博士(人間・環境学) ・2013年2月 京都大学助教(大学院人間・環境学研究科) ・2014年4月 滋賀大学教育学部講師 ・2017年4月～ 滋賀大学教育学部准教授 	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="432 1137 933 1713" style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;">  <p>京都の旅のプランの一例(安藤作成) 「説話の縁をつなぐ」</p> </div> <div data-bbox="949 1137 1466 1713" style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;">  <p>滋賀の旅のプランの一例(安藤作成) 「古代近江国の中心地域を歩く」</p> </div> </div>
<p>【主な社会的活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学会活動 ・人文地理学会、歴史地理学会、日本地理学会、日本地理教育学会など ●社会的活動 ・文理融合出前授業を行う「チーム GANTT」の一員として、学際融合的な授業を実施 	
<p>【主な論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「説話文学における舞台と内容の関連性—平安時代の都とその周辺を対象に」人文地理 60-1、2008 ・「京都の歴史遺産と旅—授業実践を踏まえた歴史地理学からの提案—」歴史地理学 55-1、2013 ・「平安貴族における「京」と「洛」」歴史地理学 58-5、2016 (京都新聞にて紹介記事、2017・6・29 京都版) 	<p>企業・自治体へのメッセージ</p> <p>上記のようなテーマ性のある「旅のプラン」を、企業や自治体の方々とコラボレーションして作成することができる、新しい視点での観光のコンテンツが生み出されるかもしれません。</p> <p>これにより、インバウンドに頼ることの難しい観光に対しての、新たな活性化策となっていけないか、考えてみたいところです。関心がありましたら、お声がけいただければと存じます。</p>